サステナブル ⑥

持続可能な社会の再構築とＩＣＴの応用

図書館の運営管理には、さまざまな業務が伴う。現状は、それらを司書一人に任せている図書館が少なくないが、それでは図書館サービスの質にばらつきが出てしまう。こういった課題を解決するためにリブネットではＩＣＴを活用して、さまざまなサポートをシステムとして提供している。（北島圭）

ＩＣＴで図書館サービスを均一化

リブネットの広場

リブネットでは、各図書館で運営管理を務める同社スタッフがつねにアクセスできるイントラネットサイト「リブネットの広場」を用意している。

例えば、各学校では図書だよりを作成しているが、これらをゼロからつくっていくと膨大な時間がかかるので、同サイトを通じてフォームを提供し、そのフォームを各学校がアレンジしていくだけで最短の時間で品質の高い図書だよりをつくれるようにしている。

同社で業務管理を担当する井上智恵子氏は「学校図書館では司書のスキルによってできあがってくる商品に差が出る場合があるが、こうした取り組みにより、その格差を縮めて、一定レベルのサービスを担保することができる」と話す。

また各学校と自治体との契約内容によって、提出書類もすべて変わってくる。ここでも各エリアの実態に沿った内容の書類につねにアクセスできるようにしている。

また図書館内のディスプレイ（書架や飾りつけ）についても紙を印刷して切り抜くだけで、均一のサービスを提供できる。

このようにどのスタッフがどの学校図書館を担当しても一定レベルのサービスを提供できるようにしている。

スタッフの心理的孤立を防ぐシステム

スタッフとアドバイザをつなぐ

「一方、図書館は一人仕事になりがちで、各スタッフの力量によって差が出るものだ。こういったフォームも提供しており、型心理的に孤立することが多い。その部分をサポートするために、勤務カレンダを用意し、出先で対応することもある」と井上氏は述べる。

このようなサポートを通して、図書館スタッフに心理的孤立感を与えないようにしている。

その日の業務内容を逐一日報で報告してもらっている。また『きょう、このような業務で、お客様から質問があったが、どうすればいいか』といった問い合わせについては、本社側にいるアドバイザがすぐに対応するようにしている。アドバイザは外出することもあるので、そのときはタブレット端末を持参し、

スタッフとアドバイザをつなぐことで、業務の効率化、スタッフの均一化を図りながら、スタッフに心理的孤立感を与えないようにしているところがリブネットの特色だ。

図書館では選書も重要な業務だ。普通は、1人の知識で選書をするのは難しい。

そのため同社では、教育委員会から予算をもらい、書籍を購入するが、100万円以上の予算が付くと、司書選書リストを用意。同社のフィルタを通して、優良で健全な書籍リストを提供している。

「各自治体によって、参考図書、おすすめ図書が異なる。そのため選書リストは、各自治体・学校の要望に沿った形で対応している」（井上氏）。

同社では一連の運営管理をすべてＩＣＴ化している。

リブネットの広場の画面